

Vol. 9 No.1 January 1999 (NAGOYA)

Supplement to Journal of Epidemiology

■ 日本疫学会 Japan Epidemiological Association ■

第9回 日本疫学会総会講演集

JEA

コホート研究における追跡初期死亡データの影響

○黒沢美智子、稲葉 裕、菊地正悟(順天堂大・医・衛生)、高木廣文、佐藤俊哉(統計数理研)、縣 俊彦(慈恵大・環境保健医)

【目的】コホート追跡から1～2年後の死亡例、特に生活習慣病を死因とする例は調査開始時に問診票が得られた時点で既に罹患していたことが推測される。全死亡例及び全がん死亡例とコホート開始1～2年後の死亡例を除いた場合で問診票調査結果を比較し、追跡初期死亡例の影響を検討する。

【方法】平成元年(1989年)1月に山梨県東山梨郡の3町村で30歳以上の住民を対象に生活習慣調査を行い、性と生年月日が不明であった例と30歳未満の人の回答を除く、9,068件を対象とし、同地区の平成元年から8年までの死亡者と転出者のデータを得て、リンケージさせた。そして生活習慣全般に関する質問の内、食品摂取頻度に関する項目と食品の嗜好、飲酒喫煙習慣についてリスク因子の影響を分析するためCOXの比例ハザードモデルを用いて全死亡及びがん死亡例のハザード比を求め、同様に初期死亡例を除いた場合と比較した。がん死亡例の分析ではがんの既往歴のある例を除いた。

【結果】8年間に死亡した対象者は808人、死因ががんであったのは262例、転出者は325人であった。全死亡の場合、COXの比例ハザードモデルを用いた分析でハザード比が高かったのは「年齢」、「飲酒(止めた)」で、ハザード比が低かったのは「性(女)」、「しそ・唐辛子(3-4/週以上摂取)」、「高塩分嗜好(普通)」、「米飯(一日4杯以上)」であった。喫煙習慣には関連は見られなかった。追跡2年までの死亡例を除くと「しそ・唐辛子」「性」「米飯」の影響はなくなった。同様にがん死亡の場合ではハザード比が高かったのは「年齢」「チーズ(1-2/週以上摂取)」「鶏肉(3-4/週以上摂取)」、ハザード比が低かったのは「ヨーグルト(1-2/週以上摂取)」、「トマト(1-2/週摂取)」「味噌汁隔日以下」「高脂肪食嗜好(普通)」で、飲酒・喫煙習慣とも関連は見られなかった。追跡2年までの死亡例を除いて分析した結果でも「鶏肉」以外ほとんど変化はなかった。(下表参照)

【考察】食品摂取に関しては全死亡では初期死亡例の影響が僅かに見られたが、がん死亡に関しては特に影響は見られなかった。全死亡のうち、心疾患や脳血管疾患では食事指導が行われている可能性が高いと思われるが、がんについては特に変化はないと考えられる。

<謝辞>本研究の一部は文部省特定(A)研究班(代表 大野良之)と統計数理研究所共同研究(A)(代表稲葉 裕)の補助を得て行った。

表 全がん死亡例と追跡から2年間の死亡を除いたがん死亡例のリスク因子

項目	全がん死亡 ハザード比(95%CI)	H1、H2年死亡を除くがん死亡 ハザード比(95%CI)
年齢	1.091(1.073-1.109)	1.089(1.070-1.110)
ヨーグルト 食べない	1	1
1-2/週以上	0.341(0.186-0.628)	0.350(0.182-0.675)
チーズ 食べない	1	1
1-2/週以上	2.626(1.501-4.597)	2.268(1.225-4.199)
高脂肪食 好き	1	1
普通	0.509(0.317-0.815)	0.469(0.255-0.860)
嫌い	0.774(0.462-1.295)	0.788(0.447-1.389)
トマト 1-2/月以下	1	1
1-2/週	0.598(0.363-0.985)	0.564(0.326-0.976)
鶏肉 1-2/月以下	1	1
3-4/週以上	1.759(1.017-3.042)	1.188(0.817-2.709)
味噌汁 毎日	1	1
隔日以下	0.627(0.411-0.957)	0.571(0.356-0.915)